

令和3年度 第1回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

- 日 時 令和3年10月7日(木) 午後2時30分～5時00分
- 会 場 ウェブ会議 (Zoom 会議) (近江八幡市役所4階 第1・3・4・5委員会室)
- 出席委員 ◎中川千恵美委員、 ○小西ひとみ委員 (◎: 会長等、○: 副会長等)
- 榎本祐子委員、田中由佳委員、浅井雅 委員、大野弘典委員、
田中里美委員、松本潤 委員、毛利芳子委員、津田幸子委員、
山本恵子委員、八木明恵委員、河村加恵委員、福永利明委員、
杉浦香 委員、村地信彦委員、久家昌代委員、前出みずほ委員、
見島めぐみ委員
- (欠席) 田中裕喜委員、木下堯弘委員、杉本僚子委員
- 傍 聴 者 0名
- 議 題 (1) 第二期子ども・子育て支援事業計画 ハチピープランの進捗状況について
- ・法定事業にかかる令和2年度実績報告について
 - ・重点取組にかかる令和2年度進捗状況について
- (2) 近江八幡市の児童の状況について
- (3) その他

議 事 詳 細

1. 開会

2. 部長あいさつ

部長：役員改選により、新たに8名の委員を迎えての再スタート。初めてのウェブ会議で慣れない方もあると思うが、よろしく願いたい。

緊急事態宣言が9月末で全面解除された。ワクチン接種も進んでおり、当市の接種率は国や県よりも高い状況となっている。11月に希望者の接種完了を目指して取り組んでいる。

さて、今回の緊急事態宣言中は、子育て支援センターや子どもセンターの臨時休館をせず、自由来館と相談業務を継続、参加期間の限定される教室等も継続した。コロナ禍で一層孤立や孤独を感じながら、どこにも相談できずに不安な子育てをする母親や家庭に、少なからず寄り添えたのではないかと考えている。

また、放課後児童クラブでは、小学校の短縮授業に伴う1時間早い開所に、全クラブが対応いただいた。ご負担をおかけしたが、そのご尽力に心より感謝申し上げます。

感染拡大により、事業実施が計画通りできず、達成が難しい状況にあるが、何もかも一律にやめるのではなく、創意工夫し、出来ることを出来る形で、一歩ずつ実施していかねばならないと考える。引き続きご理解とご協力をお願いしたい。

ハチピープランの取組みが、実効性を持って市民のみなさまのもとに届くよう、また、地域社会全体で子どもと子育て家庭を見守り、支えるまちを目指していけるよう、変わらぬお力添えをお願いしたい。

3. 委員紹介（自己紹介）

委員および事務局の自己紹介。

4. 会長あいさつ

会長：初めてのウェブ会議による開催。生の意見をいただけるこのような機会をもてたこと、そして、皆さんにご参加いただいたことをたいへんうれしく思う。

今日は、第二期子ども・子育て支援事業計画に則り、令和2年度の進捗状況について、それぞれの立場からご確認いただく。限られた時間だが、子どもの育ちや家庭の状況について、忌憚のないご意見をお願いしたい。

最近、このような会議を通して、「連携」という言葉が重みを増していると実感する。まずは情報共有が大切であるが、厳しい事件や案件に至ると、情報共有はするものの他機関任せとなることがあり、情報共有だけで終わってはいけなさと感じている。

それぞれの役割分担を調整しつつ、互いの立場にない協力ができると、子どもや家庭への協働がより良い連携につながると考える。

委員の皆さまの当事者、保護者としての考えを聞かせていただきながら、近江八幡市行政の現状について確認し、出来ていないからいけないのではなく、どんな風にしていけるのかを考えていける時間になればと思う。

5. 議題

(1) 第二期子ども・子育て支援事業計画 ハチピープランの進捗状況について

法定事業にかかる令和2年度実績報告について

○事務局より、資料3・資料4について、概要説明。

○幼児課より、資料3について、量の見込みと確保方策の見直し、R2実績について説明。

委員：質問・意見等なし

重点取組にかかる進捗状況について

○事務局より、資料4の表の見方について説明。

○事務局より、資料4 基本目標Iについて説明。

○生涯学習課より、基本目標I⑧放課後子ども総合プランについて説明。

委員：基本目標I①利用者支援事業 基本型・母子保健型、②地域子育て支援拠点事業の達成度について。目標箇所数というハード面の数を達成すればAとなるのか、それとも取組内容のどの部分かをみてソフト面でAと評価されているのか、確認したい。

また、⑧放課後子ども総合プランについて、基本的には居場所づくりとなっているが、子どもの居場所づくりを目標としているのか、それとも、プランを策定することを目標としているのか、確認したい。

事務局：①②の事業は法定事業であり、実施場所をいくつ整備できたかを目標値として設定しているため、それぞれの年度ごとに実施箇所数を満たせばAとなる。また、ABCという達成度だけでは説明しきれない内容については、具体的な取組内容の欄に記載している。

生涯学習課：⑨放課後子ども教室については、実施校数を達成すればAとなる。今後、子どもの居

場所について現状把握していく必要があるので、今年度中にアンケートを実施し、子どもの放課後の過ごし方を把握したうえで事業を進めていきたいと考えている。

委員：①利用者支援事業母子保健型の今後の課題について、「地域との連携方法を検討する必要がある」と記載されているが、どのような内容を考えているのか教えてほしい。

健康推進課：当課としては、これまでも個別相談に対応してきているが、地域の方と現状について情報共有する場はもてていない。今年度は、担当者が子どもセンター長会議へ参加したり、利用者支援員との話し合いの場をもつなどしており、今後は地域の方との話し合いの場を段階的に持っていきたいと考えている。様々なケースや地域の状況を共有しながら、個別案件や地域課題を見る目を揃え、一緒にどうしていくのかを考えていきたいと思う。

○基本目標Ⅱについて、事務局の説明。

委員：①産後ケア事業について。1人目の出産は、特に不安が大きく助産師に話を聞いてもらうことが大切だが、2人目、3人目は産後ゆっくり休むことが難しく、「産後の体を休める」ということについてもう少し何か対応できないかと思う。特に、資料3P9子育て短期支援事業（ショートステイ）の利用実績は、R元、R2年度とも0人である。親と同居していると使えず、利用料が他市町より割高、認知度も低い現状が影響しているのではないかと。たとえ1日休むだけでも母体の回復度は大きく違う。同居していても利用できる、利用料金を下げる等、利用しやすい条件設定が必要と考える。助産師相談と並行して、産後の体を休める環境づくりをお願いしたい。そうすれば満足度も上がると思う。

子ども家庭相談室：ショートステイの利用実績がないなかで、今年度、見学までいったケースがあった。やむを得ない理由により、実際の利用には至らなかったが、育児疲れに伴う利用希望であった。利用料は所得によって段階的に設定しており、非課税世帯やひとり親世帯は利用料がかからないが、利用しやすい条件設定は、おっしゃる通りだ。いただいた意見を参考にしながら、できるだけ使っていただきやすいように今後検討していきたい。

委員：ショートステイについて、近江八幡市は他市にある児童養護施設を利用しているが、他市町では里親を活用して利用率を上げているところがある。検討してはどうか。

子ども家庭相談室：ショートステイは遠方だと使いづらく、里親の整備は必要と考える。少数だがショートステイ先としての利用を承諾されている里親があるので、今年度、要綱改正等を行い、里親を預け先として利用していただける方向で考えていく。

○基本目標Ⅲについて、事務局の説明。

会長：コミュニティスクールについて、学校現場はどのような状況か。

委員：今年度中には、全小中学校がコミュニティスクールとなる予定。当市は、コミュニティセンターと小学校を一体化し、コミュニティエリアとして再構築していく方針のもと取り組んでおり、結果、地域の方と子どもたち、また教職員の距離感が非常に縮まっていると感じている。学校運営協議会となり、いろいろなやり取りが回数的にも内容的にも充実してきている。今後、地域一体化の学校運営を図っていくために、非常に良い取り組みだと思っている。

会長：近江八幡市でのグッドプラクティス＝地域と一体的な動向として、アピールしていただけたらと思う。

○基本目標Ⅳについて、事務局の説明。

委員：㉕歩道・通学路の安全対策について。千葉県で通学中の痛ましい事故があり、本校PTAでもアンケートをしたところ、通学路の点検をするだけで、改善が見えないという声が多くあがった。点検の実施だけで、目標が達成できたという考え方で良いのか疑問に思う。例えば、通学路となっている踏切が狭く、接触の危険があるため、再三要望をしているが、一向に改善がみられない。子どもたちは非常に危険な場所を通学している。点検した点を具体的にどのように改善していくのか確認したい。

学校教育課：6月末～7月上旬にかけて、学校教育課、土木課、警察、自治会代表、県道路関係課が集まり、すべての通学路の危険箇所について点検を実施した。点検の結果を受け、少しでも安全に通学できるよう、各機関連携し、それぞれの管轄道路等について整備を行っている。また、今年度は、千葉の事件を受け、文科省から再点検の通知があり9月にも点検を実施した。指摘のあった踏切については、県、市、JRにもかねてから働きかけているが、現時点では改善に至っていない。決して放置しているわけではない。年間を通して危険箇所の報告があれば現地確認を行い対応しているので、今後も危険箇所等あれば、学校教育課へ連絡をお願いしたい。

○基本目標Ⅴについて、事務局の説明。

委員：質問・意見等なし

○基本目標Ⅵについて、事務局の説明。

㉓について、健康推進課、子ども家庭相談室から説明。

㉔～㉗について、発達支援課から説明。

委員：コロナ禍の影響で、社協の実施する緊急貸付に非常に多くの外国人が訪れ、窓口対応に苦慮した。また、昨年度、市社協が中心となって実施したおにぎりプロジェクトでは、おにぎりを必要としている子ども、特に外国人の子どもたちにどのように届けたいのか、金田コミセンで外国人児童に定期的な学習支援を行っているワンダーアミーゴクラブから直接届けてもらう等、助けてもらった。

㉘適切な行政情報の提供でも外国人の対応について触れているが、本当に困っている方の見えづらさ、また、見えているところにどのように届けるか、どんな仕組みを作っていけば良いのか、という問題がコロナ禍で浮き彫りになったと感じる。また、皆さんにも相談させてもらえるとうれしい。

会長：このような見えづらいニーズや困っているサインから見えてきたアプローチ等、行政で何か取り組んでいることはあるか。また、これからのニーズ把握について、意見等あるか。まだまだ点々になっている取り組みだが、必要な方に支援を届けていくこととその対応の仕組みについて、つなげていかなければいけないと思った。

担当課には今後の展開ということで、社協が把握している情報や問題意識を共有していくことから始めていただければと思う。

事務局：このような課題があるということをお聞きしたので、事務局として、まちづくり担当課とも情報共有させていただきたいと思う。

(2) 近江八幡の児童の状況について

○事務局より、資料5について説明

○子ども家庭相談室から、児童虐待に関する状況について説明。

委員：児童虐待について、小学生の虐待件数だけが急激に増えている。理由がわかれば教えてほしい。また、市の不登校児童数を一覧にまとめたものがあれば教えてほしい。不登校の保護者という当事者となり、改めて、データとしてまとめたものがないことに気づいた。コロナ禍で不登校が増加していることは全国的にも言われているが、近江八幡市でどのくらいの不登校があるのか。また、保護者や教育機関に対し、市は今後どのようなサポートを見据えているのか教えてほしい。

子ども家庭相談室：小学生の虐待数がなぜ増えたのか、分析結果についてお答えできるものはない。

学校教育課：小学生の虐待数が増えた理由について、お答えできる材料はないが、不登校に関して、学校教育課では、毎月、欠席数が多かった子、問題行動等があった子について、各学校から報告を受けており一覧は作っている。ただ、1件1件同じケースはないので、学校と連携しながら、教育相談所や学校教育課へつなげ、適切な相談機関へつなげいくという方法をとっている。学校に行けないことによる学習保証については、学級担任と相談して、より良い方法を模索いただければと思う。昨年度末には、1人1台タブレットを支給しているので、タブレットを使った学習も可能である。関係機関をうまく利用いただければと思う。

委員：不登校の数が実数として見えないと、問題として取り上げてもらえないと考える。検索すればデータとして確認できるようにしてほしい。また、休校中の給食費の取り扱い等、市内各学校でも対応が違う。このような基本的なことは市として取りまとめていただくと、互いの負担が減ると考える。よろしくお願ひしたい。

会長：児童の福祉は就学前についての内容が中心だが、不登校、いじめ等、学校現場の状況についても、子ども・子育て会議委員として正しい情報を共有していくことが必要と感じた。また、個別判断が多い内容だと思うが、不登校になったときの一定の方向性や共通見解を保護者が確認できるということも大切だと感じた。

事務局：不登校児童数について、最新のデータではないが、ハチピープラン P18 に H27～30 年度の実績を掲載している。参考にいただければと思う。

委員：今日初めて聞くことが多く、非常に勉強になった。虐待、ひとり親、困窮、障がい等、地域から孤立しているような家庭、いわゆる支援を必要としている人と、支援をしようとしている人との繋がりが弱い気がする。今後の課題として、庁内で連携がとれる体制づくりや現場が動きやすくなる仕組みをいま以上に作っていただくとありがたいと考える。一人の親として、早急な対応が必要なことだと考える。是非よろしくお願ひしたい。

委員：不登校に関連して、民間のいろいろな活動が立ち上がっている。不登校親子の会である「蜜柑の木」は子ども食堂を、また、滋賀大学教育学部を卒業した青年3人が運営する「since」は、毎週2回、子どもを預かっての体験活動をしているが、このような民間活動がまだまだ知れ渡ってないことに問題意識を持っている。また、この2団体と0歳からのフリースクールである「ひとつぶてんとう園」が、東近江圏域の不登校の受皿となるサポートブックを作成されているが、民間が作成した情報を公の機関でどのように認知してもらい、困っている方に届けていけるのか悩まれている。今後、どんな風に広めていけば

良いのか、お力添えをいただきたいと思う。

会長：すべて行政だけで対応出来るわけではない。自助、共助の「共助」に、民間活動の貴重な積み上げ、当事者の問題意識から広がった様々な活動がある。また、行政の専門職を含めた展開である公助がある。それらがうまく重なり合うように、民間活動とのより良い連携を構築していかななくてはならないと感じた。

事務局：コロナ禍で新たに見えてきた課題があると感じた。会長が言われた通り、行政だけでは取り組んでいけないことも少しずつ増えている。本日、午前中にも市内子育て団体との意見交換会があり、民間団体が非常に頼もしく感じた。今後、これらの団体とも協働するなかで、解決できていないことについて前進できればと考える。

6. 閉会挨拶

副会長：長時間となったが、それぞれの立場で貴重な意見をいただきありがとうございました。初めてのウェブ会議であったが、今度は是非、顔を合わせて会議ができれば良いと思う。本日はたいへんご苦労さまでした。